

授業概要

現在、金融緩和・財政出動・成長戦略を駆使して、強い経済を作り上げようということが、安倍政権によって進められています。ところが、実際におこなわれているのは、日本銀行による「大胆な金融緩和」だけであると考えられます。たしかに、円安が進み株価も上昇してきました。たしかに、輸入価格は上昇しているものの、デフレはなかなか本格的に終わりそうにありません。

アメリカでのトランプ政権の登場でアメリカ経済と世界経済は大きく変わろうとしています。ヨーロッパでも難民の排除などを主張する政党が伸びています。変容しつつある現下の世界経済について詳しく議論します。

春学期は、世界経済と日本経済に関するテーマを定めて議論します。秋学期は、各自にテーマを設定してもらって、小論文の作成をしてもらいますが、これは卒業論文作成のための準備作業です。

授業計画

第 1 回	演習の概要	第 16 回	後期演習の概要
第 2 回	トランプ政権誕生をどう見るか	第 17 回	学術論文とは何か
第 3 回	ヨーロッパでの極右台頭をどう見るか。	第 18 回	テーマ設定の留意点
第 4 回	1980年代末の日本の資産バブル	第 19 回	文献検索の方法
第 5 回	平成大不況の長期化	第 20 回	テーマと概要の発表 (1)
第 6 回	1990年代末のアメリカITバブル	第 21 回	テーマと概要の発表 (2)
第 7 回	2000年代初頭の欧米の資産バブル	第 22 回	論文作成の留意点
第 8 回	世界金融危機の勃発	第 23 回	研究発表 (1))
第 9 回	フル出動する欧米の中央銀行	第 24 回	研究発表 (2)
第 10 回	デフレはマネー現象か	第 25 回	研究発表 (3)
第 11 回	日銀の大胆な金融緩和	第 26 回	研究発表 (4)
第 12 回	2%のインフレ目標は達成不能	第 27 回	研究発表 (5)
第 13 回	インフレ高進の可能性	第 28 回	論文の作成の仕方
第 14 回	日本経済と日本経済のあり方	第 29 回	論文の作成と提出
第 15 回	前期演習のまとめ	第 30 回	演習のまとめ

到達目標

春学期は、アメリカでのトランプ政権誕生やヨーロッパでの極右台頭、などに揺れる世界経済と日本経済の本質的な問題点はどこにあるか、

ということの基本を理解してもらうことが到達目標です。

秋学期には、世界経済や日本経済に関するテーマを選び小論文を作成してもらいます。

その際、社会科学系の演習ですので、突っ込んだ議論に耐えられるような研究レベルの到達をめざします。

履修上の注意

現実の世界経済と日本経済の動きを取り上げて議論しますので、新聞は、必ず読んでください。日々、報道されるテレビやラジオなどのニュースにも関心を持ってください。取り上げるテーマについて事前に勉強してください。また、ゼミが終わったら、議論のまとめをしてください。

予習復習

研究発表では、論旨を明快にするように準備し、批判された点はどこがおかしいか見直してください。

評価方法

演習での発表(50%)、発言(30%)や取り組み状況(20%)などによって評価します。

テキスト

テキストや参考文献は、必要におうじて演習中に指示します。

授業概要

本演習では、企業会計理論の学習を対象として、特に国際会計の全般的、基礎的把握に努めるとともに、各自の関心分野についての問題意識の形成、問題の構築、問題の分析を行う。

授業計画

春期では、国際会計の基礎的知識をマスターするために、関連資料を選定し輪読する。
 秋期では、各自が関心をもつテーマについて報告と討論を行う。
 また、年2回、レポートの提出を求める。

第 1 回	国際会計の意義と研究領域	第 16 回	IFRS の要点解説 (P/L 項目)
第 2 回	国際会計制度の沿革 1 (IASC)	第 17 回	IFRS の要点解説 (P/L 項目)
第 3 回	国際会計制度の沿革 2 (IASB)	第 18 回	各自のテーマの報告と討論 1
第 4 回	主要国の会計国際化 1	第 19 回	各自のテーマの報告と討論 2
第 5 回	主要国の会計国際化 2	第 20 回	各自のテーマの報告と討論 3
第 6 回	主要国の会計国際化 3	第 21 回	各自のテーマの報告と討論 4
第 7 回	主要国の会計国際化 4	第 22 回	各自のテーマの報告と討論 5
第 8 回	IFRS の基礎知識 1	第 23 回	各自のテーマの報告と討論 6
第 9 回	IFRS の基礎知識 2	第 24 回	各自のテーマの報告と討論 7
第 10 回	IFRS の要点解説 (B/S 項目)	第 25 回	各自のテーマの報告と討論 8
第 11 回	IFRS の要点解説 (B/S 項目)	第 26 回	各自のテーマの報告と討論 9
第 12 回	IFRS の要点解説 (B/S 項目)	第 27 回	各自のテーマの報告と討論 10
第 13 回	IFRS の要点解説 (B/S 項目)	第 28 回	論文作成の基礎 1
第 14 回	IFRS の要点解説 (P/L 項目)	第 29 回	論文作成の基礎 2
第 15 回	春期のまとめ	第 30 回	秋期のまとめ

到達目標

- ・発表レジメの作成及び発表能力の向上
- ・卒業論文作成の準備作業及びテーマの決定

履修上の注意

- ・毎回必ず出席してほしい。
- ・演習は参加型授業なので、積極的に、発言、議論してほしい。

予習復習

毎回の学習テーマについて予習及び復習をしてほしい。

評価方法

講義時の積極性やレジメ・発表のでき具合等を考慮して、総合的に評価する。

テキスト

- ・開講時に指示する。
- ・必要に応じて、プリントなどを配布する。

授業概要

第四次産業革命が進む中、私達人間の生活をより豊かなものにするため、世界中で様々なビジネスが創出され、進化し続けています。世界人口が増加の一途を辿り、高齢化が進展し、生活習慣病が死因の上位を占める中、『健康、予防、医療、介護』といったキーワードで、どのような産業や事業が関わっているかについて総合的に理解を深めることを本演習の目的とします。

授業計画

第1回	メーカー①：食品（調味料・冷凍食品）	第16回	保険②：損害保険
第2回	メーカー②：食品（食肉加工・即席めん）	第17回	流通①：専門店（ドラッグストア）
第3回	メーカー③：食品（菓子・牛乳・その他）	第18回	流通②：スーパー
第4回	メーカー④：飲料	第19回	流通③：コンビニエンスストア・ディスカウントストア
第5回	メーカー⑤：化粧品	第20回	情報・通信：インターネットサービス
第6回	メーカー⑥：生活用品	第21回	運輸：航空・鉄道・陸運
第7回	メーカー⑦：医薬品（外資系）	第22回	サービス①：フードサービス（外食）
第8回	メーカー⑧：医薬品（国内一般用医薬品）	第23回	サービス②：フードサービス（中食）
第9回	メーカー⑨：医薬品（国内ジェネリック医薬品）	第24回	サービス③：フードサービス（給食）
第10回	メーカー⑩：医薬品（国内創薬・医療用医薬品）	第25回	サービス④：アミューズメント
第11回	メーカー⑪：精密機器－医療機器	第26回	サービス⑤：テーマパーク
第12回	総合商社	第27回	サービス⑥：旅行・ホテル
第13回	専門商社①：食品	第28回	サービス⑦：教育
第14回	専門商社②：医薬品	第29回	サービス⑧：高齢者サービス
第15回	保険①：生命保険	第30回	その他：公益法人等

到達目標

- ・『健康、予防、医療、介護』、それぞれのキーワードの特徴について理解できる。
- ・『健康、予防、医療、介護』に関連する業界について理解を深める。
- ・『健康、予防、医療、介護』の各キーワードが関連する企業について理解を深める。
- ・『健康、予防、医療、介護』の各キーワードにおいて求められる新たなビジネスの視点について考えられる。

履修上の注意

『健康、予防、医療、介護』に関するビジネスに関心を持っている学生の皆さんを歓迎します。

予習復習

専門用語が多いので、事前学習及び各単元後の復習の習慣を身につけるようにしてください。

評価方法

試験（最終レポート含む）60%、小レポート及びプレゼンテーション 40%

テキスト

教科書は特に使用しません。必要に応じて指示し、必要な資料を配布します。

授業概要

本ゼミは「財務会計の諸問題や企業の会計情報に関心のある学生が、卒業論文作成のための基礎知識を習得すること」を目的とする。財務会計の役割は、企業の経済活動を描写して、報告（情報提供）することである。3年次には、企業の経済活動に関する情報について『有価証券報告書』などを使用して財務会計に限定せずに指導する。（ただし、ゼミ生が財務会計に特化した内容を希望する場合には、下記計画のうちの春期の内容を財務会計中心のものとする。）

また、就職活動を考慮するとグループワークの演習は欠かせないと考えている。そこで、履修者の人数にもよるが、秋期にはグループによるレポート作成コンテスト（学外主催）への投稿を行うように指導する。

授業計画

第 1 回	ガイダンス・上場企業について	第 16 回	夏季休業期間中の課題の報告
第 2 回	上場企業の選択と下調べ	第 17 回	上記報告を踏まえた課題の討論
第 3 回	有価証券報告書の概要	第 18 回	各自の課題に関連する業界研究①
第 4 回	主要な経営指標①	第 19 回	各自の課題に関連する業界研究②
第 5 回	主要な経営指標②	第 20 回	第 20 回から第 23 回は
第 6 回	沿革	第 21 回	上記検討を踏まえた資料収集・報告
第 7 回	事業の内容	第 22 回	・検討の繰り返し。
第 8 回	企業集団など	第 23 回	チームの統一テーマ・章立ての決定
第 9 回	業績の概要①	第 24 回	第 24 回から第 26 回は
第 10 回	業績の概要②	第 25 回	チームレポート作成のための
第 11 回	対処すべき課題	第 26 回	資料収集・報告・討論の繰り返し
第 12 回	事業リスク	第 27 回	レポートの完成・提出
第 13 回	秋期のためのテキストの輪読①	第 28 回	プレゼンテーション準備
第 14 回	秋期のためのテキストの輪読②	第 29 回	プレゼンテーション
第 15 回	まとめと第 16 回に向けてのガイダンス、夏季課題のガイダンス	第 30 回	卒論報告会への参加

上記項目は目安であり、進度により適宜変更・調整する。

到達目標

- ・『有価証券報告書』における「企業の概況」「事業の状況」の記載内容を知る。
- ・自らがテーマを探し、そのテーマについて共同作業でレポートを完成させる。（共同作業なのでチームにおける自分の役割を理解し、積極的に討論に参加する。）

履修上の注意

- ・専門演習は卒業までの2年間にかかわるので、登録前に必ず面談し、担当者の意図を理解した上で選択すること。
- ・ゼミの活動は通常の講義時間以外のエクステンションセンター主催の各種講座、学外での活動や懇親会への参加などを含む総合的なものであると考えているため、様々な履修指導を行う。

予習復習

- 予習・春期：各自の選択した会社の『有価証券報告書』の指定部分の報告レジュメの作成。
- ・秋期：テーマに関する報告資料の検索と討論で説明・回答するための内容の検討。
- 復習・春期：報告レジュメに対する討論内容を反映したレポートの作成。
- ・秋期：テーマに対する報告内容についての共著レポートの作成。

評価方法

上記の予習・復習及び報告・討論・レポートの内容などの参加姿勢を加点材料とする。一定程度、達成できたと判断すれば、定期試験は実施しない。

テキスト

春期は EDINET から出力する。秋期は学外主催のレポート提出企画に参加予定であり、送付される小冊子を配布予定である（なお、受講人数が少なければ別に1冊購入する（書籍未定））。

授業概要

各自の問題関心を重視し、これに応じた論文作成指導を行う。受講者は、研究テーマを決め継続的に報告し、討議する。最終的に卒業論文の基本的な内容の完成を目指す。自分が最も関心を持つテーマを見極め、これについて自分の意見をまとめられるように指導する。

授業計画

第 1 回	演習のあり方についての説明	第 16 回	論文の構成を立てる
第 2 回	各自の問題関心を明確にする	第 17 回	論文の構成を立てる
第 3 回	各自テーマを決める	第 18 回	論文の構成を立てる
第 4 回	資料を収集し報告する	第 19 回	論文を作成し順を追って報告
第 5 回	資料を収集し報告する	第 20 回	論文を作成し順を追って報告
第 6 回	資料を収集し報告する	第 21 回	論文を作成し順を追って報告
第 7 回	資料を収集し報告する	第 22 回	論文を作成し順を追って報告
第 8 回	資料を収集し報告する	第 23 回	論文を作成し順を追って報告
第 9 回	論文に必要な理論の学習	第 24 回	論文を作成し順を追って報告
第 10 回	論文に必要な理論の学習	第 25 回	論文を作成し順を追って報告
第 11 回	論文に必要な理論の学習	第 26 回	論文を作成し順を追って報告
第 12 回	論文に必要な理論の学習	第 27 回	卒業論文の草案の完成
第 13 回	資料を収集し報告する	第 28 回	卒業論文の草案の完成
第 14 回	資料を収集し報告する	第 29 回	卒業論文の草案の完成
第 15 回	資料を収集し報告する	第 30 回	卒業論文の草案の完成

到達目標

卒業論文のテーマを確定し、資料を収集し、必要な理論を学習し、論文の草案を作成する。

履修上の注意

論文の報告を欠かさないこと。

予習・復習

各自ネット上からの資料収集を行うこと

評価方法

授業中の報告と発言による。無断欠席は認めない。

テキスト

授業中に指示する。

授業概要

日本の経済発展をリードしている企業として、トヨタ、ホンダ、日立、ソニーなどの大企業が浮かぶが、そこでのものづくりは多くの中小企業によって支えられている。たとえば部品が数万点を数えている自動車生産では、何万社という中小企業が部品生産に関わっている。

本演習では、グローバル経済の進展の下での日本の大企業と中小企業の実態を学ぶことを通じて、今後の日本経済、日本企業の今後を展望できる能力を身につけることを目的としている。

授業計画

第 1 回	演習の概要	第 16 回	調査研究の基本について
第 2 回	日本産業と中小企業について①	第 17 回	調査研究のテーマ設定の留意点
第 3 回	日本産業と中小企業について②	第 18 回	文献検索の方法について
第 4 回	上記についての発表と討議	第 19 回	各自のテーマについての検討①
第 5 回	日本産業の海外展開について①	第 20 回	各自のテーマについての検討②
第 6 回	日本産業の海外展開について②	第 21 回	調査研究の発表の手順について
第 7 回	上記についての発表と討議	第 22 回	調査等の進行状況確認とアドバイス①
第 8 回	中小企業の海外展開について①	第 23 回	調査等の進行状況確認とアドバイス②
第 9 回	中小企業の海外展開について②	第 24 回	調査研究の発表と討議①
第 10 回	上記についての発表と討議	第 25 回	調査研究の発表と討議②
第 11 回	日本の地場産業の実態について①	第 26 回	調査研究の発表と討議③
第 12 回	日本の地場産業の実態について②	第 27 回	調査研究の発表と討議④
第 13 回	上記についての発表と討議	第 28 回	調査研究の課題と留意点
第 14 回	ゼミ生の関心事に基づく発表と討議①	第 29 回	論文作成に向けて
第 15 回	ゼミ生の関心事に基づく発表と討議②	第 30 回	演習のまとめ

なお、上記の内容については、ゼミ生の人数、関心事等によって、変更することがある。

到達目標

大学生として、自分で文献を読み、理解した内容をレポートにし、発表、議論できる能力を身につける。特定のテーマに関して、他人と自分の考えがどのように違うのかを理解する能力を身につける。

履修上の注意

私たちが生きている現代の経済社会では、解決しなければならない問題が山積している。なにが問題なのか、なぜ問題が解決できないのか、どうすればいいかの問題意識を持つことが、本演習を履修する上で重要である。

予習・復習

- 日本企業、中小企業に関する新聞記事等に関心を持つこと。
- 各テーマごとに、問題意識を持ち、レポートなどにまとめる。

評価方法

- 授業参加の姿勢や、レポート作成、発表等を総合的に判断して評価する。

テキスト

- テキストや参考文献については、必要に応じて指示する。

授業概要

中国経済について勉強する演習である。本を輪読し、議論する形式をとる。中国は最近 30 年間、持続的かつ急速な高度成長を成し遂げ、経済大国に成長し、注目を浴びているが、こうした経済発展のメカニズムや成長要因を解明するのが授業の目的である。特に「社会主義市場経済」とは何か、(典型的な市場経済とはいえない)中国経済の特徴は何か、「中国モデル」というべきものが果たして存在しているかどうか、などにスポットを当てて検討すると同時に、今後、解決しなければならない環境問題、所得格差問題などについても考え、議論していきたい。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション(演習内容、進め方、評価方法などの説明)	第 16 回	オリエンテーション(春期の振り返りと秋期の目標設定)
第 2 回	グローバル経済の中の中国経済①	第 17 回	中国の人口・労働力・雇用問題①
第 3 回	グローバル経済の中の中国経済②	第 18 回	中国の人口・労働力・雇用問題②
第 4 回	中国の改革開放政策の変遷①実験主義、漸進主義的手法	第 19 回	中国の「四農」(農業・農村・農民・農民工)問題
第 5 回	中国の改革開放政策の変遷②鄧小平の「先富論」	第 20 回	中国の戸籍制度①戸籍制度の成立過程
第 6 回	「社会主義市場経済」とは何か①「計画」から「市場」へ	第 21 回	中国の戸籍制度②戸籍制度改革と都市化
第 7 回	「社会主義市場経済」とは何か②株式制、証券取引所の導入	第 22 回	中国の戸籍制度③戸籍制度改革と「二重構造」の解消
第 8 回	「社会主義市場経済」とは何か③国有大企業の地位	第 23 回	環境問題①現状と対策
第 9 回	外国投資の役割①資本・技術・経営管理手法の導入	第 24 回	環境問題②経済大国としての責任
第 10 回	外国投資の役割②国際収支、雇用への貢献	第 25 回	エネルギー不足問題と新エネルギー開発の動き
第 11 回	地域開発と地域格差①	第 26 回	中国の「走出去」政策
第 12 回	地域開発と地域格差②	第 27 回	日中貿易関係
第 13 回	格差問題の現状と対策	第 28 回	日本の対中直接投資①中国事業の重要性
第 14 回	協調的な発展に向けて	第 29 回	日本の対中直接投資②中国事業のリスク
第 15 回	春期の内容のまとめ	第 30 回	秋期の内容のまとめ

到達目標

- 1、要領よくレジュメを作成できるようになる。
- 2、適切なコメントや疑問点を提出できるようになる。
- 3、中国経済に関する基礎知識を習得し、日本との異同点を理解できるようになる。

履修上の注意

- 1、報告内容に関連する補充資料の添付が望ましい。
- 2、報告内容に限らず、中国経済に関する幅広い議論を期待したい。

予習・復習

報告者でなくても必ず予定の内容を通読すること。

評価方法

授業参加の真剣さや積極性、発表準備の状況及び報告内容、授業態度、期末テストを総合して評価する。積極的に議論に参加せず、居眠り、無気力・無関心の履修者はマイナス評価になるので、注意してください。

テキスト

初回の演習時間に指定する。

授業概要

本演習では、近代経済学の手法を用いて経済を分析し、有効な政策を提言することができるようにすることを主目的とする。近代経済学の手法とは、統計的な方法を用いた計量経済学の手法のことである。例えば、経済活動水準が低いときには減税を実施すべきなのか、公共投資を実施すべきなのか。それを的確に判定するためには、現在の経済状況をモデル化する必要がある。

そのため、経済学の理論を習得するとともに、現実のデータを用いて経済分析をするための統計学の方法も駆使できるように指導する。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション	第 17 回	統計モデル解析の方法 1
第 2 回	EXCELの復習 1	第 18 回	統計モデル解析の方法 2
第 3 回	EXCELの復習 2	第 19 回	統計モデル解析の方法 3
第 4 回	EXCELの復習 3	第 20 回	統計モデル解析の方法 4
第 5 回	EXCELの復習 4	第 21 回	統計モデル解析の方法 5
第 6 回	EXCELの復習 5	第 22 回	統計パラメータの考察 1
第 7 回	アドインソフトの使い方 1	第 23 回	統計パラメータの考察 2
第 8 回	アドインソフトの使い方 2	第 24 回	統計パラメータの考察 3
第 9 回	アドインソフトの使い方 3	第 25 回	統計パラメータの考察 4
第 10 回	アドインソフトの使い方 4	第 26 回	統計パラメータの考察 5
第 11 回	アドインソフトの使い方 5	第 27 回	モデル分析の応用 1
第 12 回	必要なデータの収集方法 1	第 28 回	モデル分析の応用 2
第 13 回	必要なデータの収集方法 2	第 29 回	モデル分析の応用 3
第 14 回	必要なデータの収集方法 3	第 30 回	モデル分析の応用 4
第 15 回	必要なデータの収集方法 4	第 31 回	まとめ
第 16 回	中間テスト	第 32 回	期末テスト

到達目標

経営や経済のデータを分析するために、的確な統計モデルを構築し、計算結果を解釈することができるようになることが、本講義の到達目標である。幸い、EXCELには多様な統計処理ソフトが組み込まれているので、それらを有効に活用して適切な統計処理ができるようになってほしい。

履修上の注意

パソコンの実習が中心となるので、パソコンの操作（表計算とワープロ）は身につけておいてほしい。ただし、それらは必要条件ではないので、演習で指導をする。しかしながら、そうした受講生は人一倍努力してもらいたい。

予習・復習

毎回到わたって常に新しいデータを提示するので、取得したデータ分析の方法を適用して、予習と復習にあててもらいたい。毎回の講義の始まりに、課題について解説をする。

評価方法

出席状況とその時々課す課題の提出状況を判断する。

テキスト

今のところは特定のテキストを指定することは考えていないが、演習の進行状況に応じてこちらから指定することがある。

授業概要

「経営戦略の理論と実践」をテーマとする経営学領域の演習である。

経営戦略とは、企業が存続発展するための重要な指針である。本演習では、将来社会で活躍できるビジネスパーソンを育成すべく、良い戦略と悪い戦略の違いについて書かれた文献を用いてその内容をじっくりと紐解きながら、「戦略とは?」、「戦略思考とは?」などを深く探究している。方法としては、分担にしたがって毎回担当者が発表し、全員で内容を吟味し議論するスタイルである。これらを通じて、読解力・コミュニケーション能力・文章力など社会に出る前に身につけておくべき基礎能力の養成も図る。

授業計画

第 1 回	概要	第 16 回	概要
第 2 回	良い戦略とは?	第 17 回	戦略の焦点
第 3 回	良い戦略とは?	第 18 回	戦略の焦点
第 4 回	悪い戦略とは?	第 19 回	戦略のダイナミクス
第 5 回	悪い戦略とは?	第 20 回	戦略のダイナミクス
第 6 回	強みの発見	第 21 回	戦略と慣性
第 7 回	強みの発見	第 22 回	戦略と慣性
第 8 回	戦略目標	第 23 回	戦略と仮説
第 9 回	戦略目標	第 24 回	戦略と仮説
第 10 回	戦略設計	第 25 回	戦略思考
第 11 回	戦略設計	第 26 回	戦略思考
第 12 回	プレゼンテーション	第 27 回	プレゼンテーション
第 13 回	プレゼンテーション	第 28 回	プレゼンテーション
第 14 回	プレゼンテーション	第 29 回	プレゼンテーション
第 15 回	総括	第 30 回	総括

到達目標

- ・経営戦略論の専門書を理解できる能力を身につける
- ・理解した内容をデータ化し解説できる能力を身につける。

履修上の注意

- ・指定する経営戦略の専門書を購入する必要がある。
- ・遅刻と欠席には厳しく対処する。

予習復習

- ・発表者は発表内容を文書化し全受講生は文献を精読して来ることが予習である。
- ・復習として授業の内容をデータ化する。

評価方法

- ・プレゼンテーション能力の向上によって評価する。
- ・この評価には内容・形式・発言などを含む。

テキスト

- ・教科書名：『良い戦略、悪い戦略』
- ・著者名：ルメルト
- ・出版社名：日本経済新聞社

授業概要

本演習では環境会計・経営に関係した卒業論文作成の準備を行います。環境会計は企業の環境保全活動を費用対効果で定量的に測定し利害関係者へ伝達する仕組みです。春期は環境関連の基本書を輪読していきます。特に地球環境問題と持続可能な社会の形成に関することを学びます。秋期は環境会計の概要を学びその後卒業論文の作成準備を行います。実際の企業の「CSR 報告書」などを参考に卒業論文のテーマ選定をします。

授業計画

第 1 回	環境会計・経営の社会的役割	第 16 回	環境会計の概要
第 2 回	地球環境問題と持続可能な社会とは何か	第 17 回	① 環境省の環境会計ガイドライン
第 3 回	① 人口、食糧、資源	第 18 回	② 環境会計のアカウンタビリティ
第 4 回	② 貧困、格差、経済	第 19 回	③ 環境会計と ESG 投資
第 5 回	③ 温暖化と低炭素社会	第 20 回	④ 環境会計のステイクホルダー
第 6 回	④ エネルギーと環境	第 21 回	⑤ 環境・CSR 報告書の読み方
第 7 回	⑤ 生物多様性の意味	第 22 回	⑥ 統合報告書の読み方
第 8 回	⑥ 循環型社会、廃棄物	第 23 回	⑦ SDGs 持続可能な開発目標
第 9 回	⑦ 震災関連・放射性物質	第 24 回	卒業論文のテーマについて
第 10 回	⑧ 環境保全の取り組み	第 25 回	卒論の書き方①背景と問題提起
第 11 回	⑨ 環境影響評価	第 26 回	卒論の書き方②先行研究の意味
第 12 回	⑩ 企業の社会的責任	第 27 回	卒論の書き方③資料収集
第 13 回	⑪ 環境マネジメント	第 28 回	卒論のテーマ報告会①概要説明
第 14 回	⑫ ISO14001：2015 版	第 29 回	卒論のテーマ報告会②概要説明
第 15 回	課題レポート	第 30 回	卒論のテーマ報告会③概要説明
春期	定期試験	秋期	定期試験

到達目標

- ・卒業論文作成の準備ができること。

履修上の注意

- ・春期はテキストに沿ったレジメを作成し報告をしてもらいます。
- ・正課授業科目「環境会計論」は必ず受講して下さい。

予習復習

- ・各人、テキストは事前に精読しておくこと。

評価方法

- ・授業中の発言や報告内容、課題レポート等で総合的に評価する。
- ・授業態度不良者等は「不可」とする。

テキスト

開講時に公表します。

授業概要

テーマ：マーケティングの研究

この演習は、スポーツマーケティングに関する卒論作成の準備が行えるよう指導します。ポーツマーケティングにおいて、議論の多いテーマについて深く分析し、それらをどのように捉え、どう考えるべきかを学びます。教員が提示し解説するテーマについて、参加者が討論を行ない、さらにより深く調べます。さらに、各自がテーマを設定し、小論文またはビジネス提案を作成し、発表していただきます。

授業計画

第 1 回	演習の概要	第 16 回	卒論の準備について（再論）
第 2 回	卒業論文の準備について	第 17 回	注のつけ方について（再論）
第 3 回	卒論における注のつけ方について	第 18 回	応用概念（1）：ブランド戦略
第 4 回	基本概念（1）：スポーツマーケティング	第 19 回	応用概念（2）：ファン行動
第 5 回	基本概念（2）：マーケターと消費者	第 20 回	応用概念（3）：ブランディング
第 6 回	基本概念（3）：マーケティングミックス	第 21 回	応用概念（4）：経験価値
第 7 回	基本概念（4）：マーケティング戦略	第 22 回	応用概念（5）：リレーションシップ
第 8 回	基本概念（5）：管理と戦略との違い	第 23 回	応用概念（6）：パブリシティ
第 9 回	研究発表と討論（1）	第 24 回	研究発表と討論（1）
第 10 回	研究発表と討論（2）	第 25 回	研究発表と討論（2）
第 11 回	研究発表と討論（3）	第 26 回	研究発表と討論（3）
第 12 回	研究発表と討論（4）	第 27 回	研究発表と討論（4）
第 13 回	研究発表と討論（5）	第 28 回	研究発表と討論（5）
第 14 回	研究発表と討論（6）	第 29 回	研究発表と討論（6）
第 15 回	前期のまとめ	第 30 回	演習のまとめ

到達目標

マーケティングとスポーツマーケティングの基本概念と論点を理解し、自ら調べ、考えることができるようになること、および、スポーツマーケティングに関する小論文を、自らの手で書き上げられるようになることを到達目標としています。

履修上の注意

- ◎演習では、グーグルなどを使ってインターネットで調べてくるという課題を出します。スポーツイベントや組織はグローバル化していますので、日本語のウェブサイトだけでなく、英文のウェブサイトを調べることを嫌がらない態度が望ましいといえます。
- ◎メールにレポートを添付して提出していただきます。メール提出のレポートは添削してお返しします。
- ◎なお、昨今、スマホは使えるがメールは苦手という学生が少なくありませんが、各自、スマホだけでなく、パソコンのメールからファイルを添付してメールを送付できるようにしてください。
- ◎演習には必ず出席すること、また、30分以内の遅刻は認めますが、遅刻3回で欠席1回分にカウントされることに注意してください。

予習・復習

事前にわたす資料などを演習前によく読み、演習終了後には復習してください。卒論作成準備のために、絶えず自らの卒論テーマを検討することは大切です。

評価方法

演習への出席を前提とし、演習への討論など参加態度（25%）、演習で出された課題の遂行の状況（25%）、最終期末レポート（50%）によって評価します。
演習では、積極的に疑問や意見を述べる学生、および英文資料をいやがらない学生は、高く評価されます。

テキスト

テキストは使わず、適宜、資料を配り、またインターネットで調査したウェブサイトを利用します。なお、マーケティング論、スポーツマーケティング論の参考文献が必要な場合は以下の文献を参照してください。
◎薄井和夫『現代のマーケティング戦略 ― はじめて学ぶマーケティング基礎篇 ―』大月書店、2003年
◎中澤眞・吉田政幸編『よくわかるスポーツマーケティング』ミネルヴァ書房、2017年

授業概要

マーケティングは企業活動においてなくてはならないものである。何故なら「(製品やサービスを) 売するための仕組みをつくること」がマーケティングだからであり、マーケティングの取組み次第で売上・利益といった企業業績が左右されるからである。中小零細企業から大企業、学校から行政に至るまでマーケティングの考え方は応用できる。しかし、実際のビジネスにおいては、マーケティングは誤解され有効に活用されていないことが多い。何故そうになってしまうのか、それを企業の立場から検討していく。また、マーケティングの考え方は就職活動においてもとても役に立つので、どのように活用すればよいのかについても併せて指導していく。春期前半はマーケティングの基本について事例を通して指導し、春期後半から秋期は各自が設定したテーマについて検討し、卒業論文の構成を検討できるよう指導する。なお、春期、秋期ともに学外実習であるフィールドワークや地域ボランティアを経験してもらう。

授業計画

第 1 回	春期の演習の概要と自己紹介	第 16 回	秋期演習の概要
第 2 回	マーケティング概念	第 17 回	夏期課題の報告
第 3 回	マーケティング戦略	第 18 回	ゼミ生による発表①-1
第 4 回	まとめ①	第 19 回	ゼミ生による発表②-1
第 5 回	環境分析とSTP	第 20 回	ゼミ生による発表③-1
第 6 回	4P	第 21 回	まとめ④
第 7 回	まとめ②	第 22 回	ゼミ生による発表①-2
第 8 回	製品開発マーケティングの事例	第 23 回	ゼミ生による発表②-2
第 9 回	地域活性化マーケティングの事例	第 24 回	ゼミ生による発表③-2
第 10 回	採用マーケティングの事例：就職に活用	第 25 回	まとめ⑤
第 11 回	まとめ③	第 26 回	ゼミ生による発表①-3
第 12 回	論文テーマの選び方と文献検索の方法	第 27 回	ゼミ生による発表②-3
第 13 回	ゼミ生によるテーマと概要の発表①	第 28 回	ゼミ生による発表③-3
第 14 回	ゼミ生によるテーマと概要の発表②	第 29 回	まとめ⑥
第 15 回	春期演習のまとめ (夏期課題) レポート提出	第 30 回	演習のまとめ
		第 31 回	レポート提出

到達目標

春期はフィールドワークを通じて、秋期は地域ボランティアを通じて、多くの企業と接する機会を設ける。その上で、春期前半はマーケティングについて事例を通して理解し、春期後半から秋期にかけては各自の発表とディスカッションにより、卒業論文のテーマと目次構成を決め、4年次には卒業論文の調査・執筆に専念できることを目標とする。

履修上の注意

- ①土日やGW、夏期休暇中に、学外授業としてフィールドワークや企業訪問等に参加してもらうことがある。
- ②川口 Fes.等のボランティアや自治体主催のビジネスコンテストの見学などに参加してもらうことがある。
- ③正当な理由がなく遅刻・欠席する学生には厳格に対応する。
- ④課題の〆切を守らない者については厳格に対応する。
- ⑤課題レポートのコピペには厳しく対処する。

予習復習

- ①レジュメは各自インターネットからダウンロードして準備してもらう。利用方法は講義で説明する。
- ②夏期・冬期休暇に課題あり(指定書籍各休暇1冊(計2冊)の読了とその感想)。
- ③秋期授業では各自の卒論のテーマに関連する書籍を3冊以上読み、ゼミでその内容を発表してもらう。
- ④その他毎回の講義の中で事前に課題を指示する場合がある。

評価方法

授業態度(50%)、提出課題の内容等(50%)により、総合的に判断し評価する。

テキスト

テキストや参考文献は必要に応じて演習中に指示する。

(参考図書) 柴田仁夫 [2017] 『実践の場における経営理念の浸透』 創成社 (3400円, 税別)

授業概要

本演習は、経済と経営は相互に不可分との認識に基づき、「経営学を学び、日本経済を知る」を基本方針として運営されています。これは、経営学、経済学のいずれかに軸足を置きながら、両分野を学べる本学の特徴をゼミ活動において体現したものです。

専門演習では、基礎演習で修得した経営学と日本経済の知識を発展させるとともに、卒論のテーマを絞り込み、発表技術や議論の作法もあわせて修得することを目的とします。前期は日本経済の特質を金融業界について考察し、後期は日本的経営の特質を、代表的な企業家の事例研究を通して考察します。

授業計画

第 1 回	ガイダンス —目的、方法、評価等—	第 16 回	日本的経営の特質(1) —組織体制—
第 2 回	銀行の機能(1) —信用創造機能—	第 17 回	日本的経営の特質(2) —人的管理—
第 3 回	銀行の機能(2) —金融仲介機能—	第 18 回	日本の企業家(1)-三野村利左衛門-
第 4 回	銀行の機能(3) —決済機能—	第 19 回	日本の企業家(2)-小林一三-
第 5 回	証券会社の機能(1) —証券業界の歴史と構造—	第 20 回	日本の企業家(3)-石橋正二郎-
第 6 回	証券会社の機能(2) —本来業務と付随業務—	第 21 回	日本の企業家(4)-松下幸之助-
第 7 回	証券会社の機能(3) —証券会社の行為規制—	第 22 回	日本の企業家(5)-大野耐一-
第 8 回	金融政策(1) —目的と手段—	第 23 回	日本の企業家(6)-稲森和夫-
第 9 回	金融政策(2) —貨幣経済と実体経済—	第 24 回	日本の企業家(7)-小倉昌男-
第 10 回	金融政策(3) —雇用と物価—	第 25 回	研究テーマの概要発表(1)
第 11 回	国際金融(1) —外国為替市場—	第 26 回	研究テーマの概要発表(2)
第 12 回	国際金融(2) —国際通貨体制—	第 27 回	研究テーマの概要発表(3)
第 13 回	国際金融(3) —国際金融実務—	第 28 回	研究テーマの概要発表(4)
第 14 回	現代の金融問題(1) —金融バブルの発生と崩壊—	第 29 回	論文作成の手法
第 15 回	現代の金融問題(2) —金融機関の破綻と再生—	第 30 回	演習のまとめ

到達目標

本演習の目標は、基礎演習で修得した経済・経営学の知識を深めるとともに、卒論のテーマに対する履修者の学問的興味を絞り込むことです。分析能力、プレゼンテーション技術、議論の作法等を磨くとともに、研究成果を論文にまとめ上げるための基礎技術を修得します。

履修上の注意

春期は講義を中心にテーマを決めて議論する方式を採用し、秋期は履修者に割り振られたテーマを順番にレポートする形式で演習を進めます。履修者は積極的に演習に参加することが求められますので、レポーターでない場合も事前にテキストの該当箇所を読んでおくことが必要となります。より実感をもってテーマを理解できるよう講師の実務経験を交えた講義を行います。

予習復習

春期は復習中心とした知識修得を目指しますが、秋期は全員でテーマに沿って議論を行いますので、履修者は積極的に参加するためにも予習が求められます。

評価方法

春期末、秋期末のテストあるいはレポートの結果を 70%、演習への参画度や取り組み姿勢を 30%の割合で評価します。

テキスト

【参考資料】『金融[第 2 版]』貝塚 啓明・奥村 洋彦・首藤 惠著 (東洋経済新報社、2002 年)。